

洞爺湖町

議会だより

寒さに  
負けずに。

ち



- 定例会・臨時会議案審議等 .....2
- 全国議長大会・視察研修・東京あぶた・とうや湖会参加報告...3
- 一般質問・7名 .....4~10
- 委員会活動レポート .....11
- 管内議員研修会・表紙絵作者紹介・編集後記 .....12

No. 23

12月定例会  
11月・1月臨時会

2012. 2

# 平成23年 第4回定例会

## 東日本大震災による漁業被害の 災害復旧支援に5,990万円

第4回定例会が12月14日から16日までの3日間開催され、町長から提出の、規約の一部変更2件、補正予算3件を原案通り可決し、7人が一般質問を行い町長の考えをたえました。

また、意見書案5件を可決し、関係機関に送付しました。

### 〔主な議案〕

#### 規約の一部変更

- 西胆振介護認定審査会共同設置規約の一部変更
- 西胆振障害者自立支援審査会共同設置規約の一部変更

どちらも、豊浦町、壮瞥町、洞爺湖町と3町で共同設置している事務局を4月1日より、壮瞥町が担当することによる、関連条文を洞爺湖町から壮瞥町に変更するもの。

#### 補正予算

●一般会計：平成23年度歳入歳出総額に4,333万円を追加し、71億4,358万円とし、漁業近代化資金の融資に伴う利子補給として38年度までの期間139万円を債務負担行為に追加補正するもの。

主なものは、歳入では、災害復旧事業に国庫負担金として1,920万円、3・4・3眺湖通整備事業に係る町有地内支障物件移転補償金1,388万円など。歳出では、東日本大震災漁業災害復旧支援事業補助金に5,990万円、集中豪雨災害による壮瞥川災害復旧事業に2,594万円、後期高齢者医療、国民健康保険各特別会計にそれぞれ負担金646万円、繰出金792万円、救急診療体制等

支援金として910万円、除雪業務委託料に900万円、3・4・3眺湖通整備事業に係る町有地内支障物件除去工事費に866万円、町づくり交付金の精算に伴う還付金523万円、地場産品協同組合の施設整備補助金として500万円、これらの財源として、予備費から8,599万円を充当する。

●国民健康保険特別会計：医療費の増により2,002万円を追加。

●後期高齢者医療特別会計：事務費の確定等により26万円を減額。

#### 意見書

4件の意見書案を可決し、関係機関に送付しました。

◎森林・林業・木材産業施策の積極的な展開に関する意見書

◎視覚障がい者からテレビを遠ざけない地上デジタルテレビ放送と機器の開発を求める意見書

◎環太平洋経済連携協定に反対する意見書

### 第3回臨時会

平成23年11月28日

第3回臨時会が11月28日開催され、副町長の選任に同意しました。

#### 人事案件

- 副町長の選任同意
- ・八木橋 隆氏

(青葉町19番地9)

### 第1回臨時会

平成24年1月25日

平成24年第1回臨時会が1月25日開催され、3件の指定管理者の指定と、それに伴う一般会計補正予算を可決しました。

#### 指定管理者の指定

- ・洞爺湖町歴史公園夕日ヶ丘パークゴルフ場：(株)グリーンステイ洞爺湖

◎農林漁業用燃油に係る軽油引取税の免税等に関する意見書

- ・洞爺湖森林博物館：(有)洞爺湖汽船商事
  - ・洞爺水辺の里財田キャンプ場・洞爺いこいの家：洞爺産業(株)
- 指定期間はいずれも、平成24年4月1日～平成27年3月31日。

#### 補正予算

●一般会計：債務負担行為の補正として、24年度から26年度まで指定管理料715万円を追加。

### 議会を傍聴してみませんか

簡単な手続きで、どなたでも議会の傍聴ができます。ぜひ一度傍聴にお越しください。  
次回定例会は3月5日に開催を予定しています。



# 町村議会議長会 全国大会 視察研修会

議長 千葉 薫

11月16日〜20日までの5日間、町村議長会主催の全国大会と視察研修に参加して参りました。この大会には胆振管内7名の町議会議長が参加しています。大会は毎年開催されていますが、その内4年に1度は今回のように視察研修も実施しています。

## 全国大会

今回の全国大会は「真の分権社会の実現をめざして」というテーマを掲げての開催となりました。洞爺湖町の現況に即しても、分権型社会の構築は、行政・議会が共に掲げる主題となってきたことから、多くの学ぶべき事がありました。大会の中では「東日本大震災からの早期復興」、「町村財政の強化」など、多岐にわたる要望内容の決議書15件を採択しました。

## 視察研修

視察研修は和歌山県かつらぎ町と日高川町を訪ねました。かつらぎ町は道内の栗山町や白老町にも研修に来ており、議会改革に真剣に取り組んでいる姿勢が感じられました。現在は一般質問の充実や、町民からの意見・要望への取り組みに汗を流しているとの事でした。

日高川町は死者・行方不明者4名を数えた昨年の台風19号の傷も癒えない状況の中で、議会改革に取り組んでおり、ケーブルテレビでの議会放送を実現しています。



日高川町役場庁舎前

## 東京あぶた・とうや湖会 参加報告

参加報告者 七戸輝彦

11月12日「第36回東京あぶた・とうや湖会」が東京・銀座ライオンで開かれました。現洞爺湖町出身で、東京方面に居住し、活躍されている方々30名以上が出席されました。本来であれば千葉議長が出席するところですが、他の公務と重なったため、私が出席させていただきました。町側からは真屋町長と森総務課長が出席。三浦会長のご挨拶のあと、町長がジオパークや、財政健全化など古里洞爺湖町の近況をお伝えしながら祝辞を述べ、懇親会へと移りました。懇親会では若い日にそれぞれが暮らした旧虻田町の思い出話に花を咲かせていました。

年々参加者が減少している東京あぶた・とうや湖会の現状ですが、会の発展のために行政はじめ、議会も何らかのお手伝いをしなければならぬとの思いから、残念ながら帰って参りました。



11月12日東京あぶた・とうや湖会のひとこま。中学時代の先輩と43年ぶりに再会出来ました。

## 議会のしきり

- 11月 16日 全員協議会
- 16日 第55回町村議会議長会全国大会(千葉議長出席)
- 17日 総務常任委員会所管事務調査(町立学校訪問)
- 22日 経済常任委員会
- 22日 管内議員研修会(十波町)
- 22日 議会広報常任委員会
- 24日 安平町議会行政視察
- 24日 例会出納検査
- 28日 会派代表者会議
- 28日 議会運営委員会
- 28日 第3回臨時議会
- 28日 全員協議会
- 29日 総務常任委員会
- 29日 経済常任委員会所管事務調査(とうや湖農協)
- 12月 2日 会派代表者会議
- 8日 管内議長会総会(おかわ町)
- 9日 議会運営委員会
- 9日 全員協議会
- 14日 経済常任委員会・協議会
- 16日 第4回定例会
- 24年 1月 25日 総務常任委員会・協議会
- 25日 経済常任委員会・協議会
- 25日 議会運営委員会
- 25日 第1回臨時議会
- 25日 全員協議会
- 25日 例会出納検査・定期監査
- 25日 農業委員との懇談会
- 25日 議会広報委員会
- 2月 1日 総務常任委員会
- 3日 上富良野町議会行政視察



# 洞爺湖観光対策1 車道から洞爺湖が見えるように

# 七戸輝彦（公明党）



## 質問 1

**アナログ電波の停止以降、地デジを正規の形で見る事の出来ない世帯について**

**問** 平成23年7月24日正午、アナログ電波が停止した洞爺湖町の中で衛星を用いて一般のテレビ放送を受信している難視聴地域と世帯数は、

**答** 町内の難視聴地域と世帯数は、次の9地区51世帯となっています。

- ①月浦10世帯 ②泉8世帯
- ③清水12世帯 ④花和1世帯
- ⑤旭浦6世帯 ⑥財田2世帯

- ⑦大原2世帯 ⑧香川1世帯
- ⑨洞爺町9世帯

**問** 衛星放送で地上波を受信するのは今後3年間の経過措置と決まっている。最近の詳しい調査で、将来にわたり地デジが受信出来ないと思われる世帯数は、

最終的に地デジが映らない世帯は15世帯

**答** 先ほどの51世帯のうち、①高性能アンテナで受信可能な世帯は15世帯 ②近隣の敷地内で受信できる世帯は21世帯 ③受信が難しい世帯は15世帯、という状況です。

**問** 共同アンテナを設置しなればならない地域は、町の補助を含めて早めに対応を考えるべきだと思いませんか。

**答** 国の現行制度の変化も見ながら、対応を検討致します。

## 質問 2

**観光振興対策について**

**問** 溝畑観光庁長官が来町の折、観光に関し4点にわたる支援のお約束を頂いた間髪いずれに行動を起こすべきだと思いが、その後の町の対応は、



溝畑観光庁長官との意見交換会。11月28日ホテル万世閣にて

**答** ①マンガアニメフェスタ参加者の海外誘導の発信について一来年度の実施に向け、実行委員会の中で検討。

②映画「しあわせのパン」のグッズの提供について一まだ観光庁との話はしていません。今後映画のPR用にポストカードを作成する予定ですので、これを長官あてに送り、洞爺湖観光にご協力いただく足がかりとしたいと考えています。

③海外旅客の誘致や観光圏モニターツアー等について一北海道運輸局室蘭支局と話を詰めながら振興策を進めて参ります。関係部局も長官の発言を十分に理解されており、洞爺地域の観光政策の提案を検討して頂いている所です。

④洞爺湖町の関係者による観光庁への訪問PRについては一絶対のチャンスですので早々に観光庁を訪問し、洞爺湖観光のPRに努めて参ります。

## 質問 3

**「見えない湖」について**

**問** 世界に誇る「洞爺湖の景観」が車からはほとんど見えない。この事について町はどのように取り組んできたのか。

**答** 洞爺湖温泉街のホテル等については、国立公園内ですので高さ等に規制がありますが、全ての建物がこれをクリアしています。

**問** 観光客には「洞爺湖の景観」を目に焼き付けて頂くために、時間がかかっても湖が見える街に変える必要があるのではないか。

**答** 洞爺湖温泉街にある休止中の旧ホテルについては、解体時に更地にして頂くようにお願ひしています。今後もあり時間をかけないで折衝して参りたいと考えています。

# 泊原発は大丈夫か

# 沼田松夫(有志会)



## 質問 1

### わが町民のリスクについて

**問** 原発の安全神話がなくなった今、泊原発から50km圏内のわが町は泊原発の災害対策が必要ではないか。

**答** 事故時には通知されるのか30km圏内との違いは…。事故がもしも福島原発なみであれば、わが町は間違いなく影響が出ると思うが、その時は、どんなことが考えられるのか。

**答** 道においても原発の防災計画を福島原発事故を踏まえて、全面修正を今行なっています。当町は観光地でもあり、不特定多数の方もいる事もあるので、情報をいち早く流してもらえる様、道にも訴えています。今後、津波災害あるいは噴火災害もあるわけ、この原発後も大きな災害の一つとしてとらえています。また、道としっかり連携をとっていきます。

**問** 学校給食の食中毒の時の生徒らに対しての補償はどうなっているのか。

**答** 保育児童から高校生迄、一定の基準により、日本スポーツ振興センターの災害共済から、入院、通院に伴う医療費が給付され、全国町村会総合賠償補償保険からは、死亡等の補償がされます。遊具や施設物などの賠償は大丈夫か。

**答** 町に法律上の責任が生じた時は全国町村会総合賠償保険で対応します。

**問** 部活動の時保護者などの車で生徒を送迎しているがその際の補償はどうか。

**答** 町は中体連の参加等のバス借り上げの補助金160万円をつけていますが、それだけではなく、保護者の協力で参加する事もあり、その際は自動車保険の加入の確認や保護者間の同意等確実に行うよう指導していきます。

## 質問 2

### わが町の振興策について

**問** イルミネーション事業の見直しについて。

**答** 現在、御殿場市の「時之栖」のご好意でイルミネー

ション提供いただき今回で5度目になります。冬の風物詩として定着し、冬の観光客の誘致資源の一つになっているので、可能な限り今後も続けていきます。

次年度も提供頂ける様になつているので、さらなる活用のためにも観光協会に勉強に行ってくれる様話しています。

**問** ナマコ養殖の現状と今後の対策について。

**答** 21〜23年と合計54万個の稚ナマコを放流して、24年に出荷できるので、成果を期待しています。また大磯漁港に養殖施設を整備するので、そこを利用して、ナマコの陸上養殖が可能か検討します。

**問** 地熱利用について。

**答** ヒートポンプ等を利用して温泉熱を効率よく提供しています。

## 質問 3

### 児童・生徒の学力について

**問** 町の将来に大きく影響する小中学校の学力の向上策について。

**答** 各学年に応じた基礎的分を会得、学習出来なければ、次の段階に行っても本人が苦勞します。学校も家庭も地域も行政側も一体となり、少しでも向上する取り組みと環境づくりに努めます。





# 消防広域化の検討は、迅速な情報開示のもと、町民の合意を得て行うべき

## 立野 広 志

### 質 問 1

**消防の広域化に対する姿勢と町民の安全・安心なまちづくりの確保について**

**問** 消防の広域化に対する町長の考え方は。

**答** 広域の消防体制の充実を進めていくことは望ましいと考えます。

**問** 広域化に伴う課題と協議内容を明らかにし、広域化の是非を考えるべきでは。

**答** 西胆振圏域では、3つの消防署の広域化を目的に、調査検討が行われています。平成23年度中に運営計画案を策定する方向で協議をしています。現在、大きな問題としては、消防職員の身分のあり方、職員体制、指令台の一元化など、施設整備を含めた負担の様々なケースを含めて検討しています。

**問** 消防の広域化によるメリットとして、①住民サービスの向上②消防体制の充実③消防体制の基盤強化を掲げて

いるが、具体的な検証・検討がなされてきたか。

**答** 広域消防検討会議において、個々の具体的な課題の検討を行っており、整理をしています。広域化のメリットも当然生かし、本部職員の集約、通信施設の統合による充実、または住民サービスの向上が図れるような協議を行っていると考えます。

**問** 登別市の離脱理由は、西胆振消防組合や構成団体である洞爺湖町にとっても共通した問題ではないか。

**答** 町にとって大きく重要な問題だけに、広く住民に公表し、できるだけ話し合いの場を持っていきたいと考えます。

### 質 問 2

**洞爺高校の対応について**

**問** 教育委員会主催の「洞爺高校の今後を考える」住民対話集会の開催趣旨と運営方法、結果に対する評価と公表時期は。



存続が危ぶまれる洞爺高校「24年度学校案内パンフ」

**答** 3回の対話集会で、住民から洞爺高校の今後のあり方についてご意見をいただきました。その後、教育委員会で3回にわたり協議し、3つの課題があるという考え方でおりますので、それらを踏まえて考え方を取りまとめ、現在、町側と協議をしている段階です。検討案については、できるだけ早い時期に、その結論を出していきたい。それに伴い、町から地域住民の皆さんに説明する機会を早く持っていきたいと考えます。

**問** 閉校やむなしともとれる展望のない教育委員会報告。町や地域のまちづくりの視点での検討が何故行われていないのか。

**答** 仮にこの学校が閉校になったときに、洞爺地区の

地域活性化にどう対応できるのか、十分な対策を講じていかなければなりません。地域住民のご意見を十分尊重し、地域の活性化につなげてまいります。

### 質 問 3

**複式学級の増加と、子どももの教育権を保障する対策の強化について**

**問** 洞爺湖温泉など、人口の流出と少子化が進む中で、子どもの教育環境を後退させることなく、教育権を保障することは教育行政の本来の役割です。洞爺湖温泉小学校における複式学級の増加による教員の削減と相反して教員の過重負担が懸念される。道教委への加配要請と独自の支援策を求めます。

**答** 洞爺湖温泉小学校に限らず、課題がそれぞれありますので、町内小中6校全体について、教育委員会として、24年度に向かい向上できるように検討します。





# 基幹産業の農業振興計画と 若者の育成・支援対策を！

## 大西 智 (有志会)

### 質問 1

農業被害に関わる  
エゾシカ対策について

問 今年の被害状況は。

答 エゾシカによる被害面積は69ヘクタール、被害額は856万円と推計されており、昨年より被害が増加しています。

問 鳥獣被害防止計画の進捗よく状況と今後の計画は。

答 シカ捕獲足くりりわな(122基)や小動物を捕獲する箱わな(65基)、センサー暗視カメラ(5台)を購入しています。また農業者の自己防衛意識の向上を目指し、捕獲マニュアルも作成し、鳥獣被害対策研修会の開催も行っています。狩猟免許は3名、わな猟免許も11名取得しています。今後も捕獲担い手の育成、講習会等を通じ免許取得を呼びかけ、安定的な捕獲活動が維持できる体制を確立していく考えです。

### 質問 2

基幹産業である農業の  
振興計画について

問 エゾシカ捕獲後の個体処理も含めて今後の対策は。

答 捕獲においては各関係機関の協力を得て、平成24年度から一斉捕獲による駆除を行う計画です。個体の処理処分対策を町内でできないか十分検討していきます。

問 農業担い手のパートナー支援を、町はどう対応していくのか。

答

現在50名ほどの対象者がいます。平成18年度までJAとうや湖青年部が主体となつてパートナー事業を4市町の補助金により行ってきましたが、成果がありません。今後は、年代によっては世間人のような方を探し、尽力いただく方法や洞爺湖温泉街のホテルや飲食店と連携を図り、複合イベント的な街コンを開催できないか検討しています。クリーン農業への取り組みについて町はどのような

に考えているのか。

答 TPP問題も含め国際農業環境は厳しい状況にあると認識しています。JAとうや湖のクリーン農業を推進し、廃プラスチック資源リサイクル事業などの支援も考えていきます。

問 ※グローバルGAP<sup>キャブ</sup>認証制度を農業振興事業対策として考えていただきたい。

答 グローバルGAPは世界に通用する食品衛生管理基準であり、食の安心・安全は世界も求めている時代です。日本で初めてJAとうや湖がグローバルGAPの認証を取得しました。YESクリーン、グローバルGAPの取得等は生産価値を高めるものとして町としても支援します。また、農業研修センターの土壌分析もしっかりと維持・管理し、そのための対策も講じます。

問 農業振興計画の考え方と関係機関との情報の共有ができていますか。

答 まちづくり基本計画の中で農林業に触れているものの、単独での農業振興計画

### 質問 3

各産業における若者育成、  
支援について

問 若者の研修事業、交流事業を考えると。

答 洞爺湖町の将来を担う若者の育成事業は重要であると考えます。町内経済の活性化やまちづくりへの参加も期待し、若者が一堂に集い合える場面も設定しながら、若者が他方面に出かける研修などを前向きに検討していきます。

※グローバルGAPとは  
ドイツにある非営利組織。小売事業団体が安全な農産物を目指す基準と手続きを定めた議案書をつくりました。参加員が世界に広がり、80カ国以上、10万件を超える認証件数となっている。



# 洞爺地区の交通安全対策を

## 岡崎 訓 (町民連合)

### 質問 1

国道230号洞爺地区の交通安全対策について

**問** 国道230号洞爺地区の交通量、また、豊浦洞爺線、岩内洞爺線も伺います。

**答** 国道230号の交通量調査は、5年ごとに全国的に行われており、平成22年の調査を参考としますと、札幌方面から年間平日は約56万台の交通量があります。道道岩内洞爺線、道道洞爺公園洞爺線の二つを合わせた湖側に入り込む年間交通量については片側だけで29万台です。道道洞爺虻田線は、年間18万台の交通量となっています。

**問** 国道230号と豊浦洞爺線の交差点の信号機の設置について。

**答** 洞爺の成香自治会から、今の交差点での信号機の設置について要望があまりし

た。新設というよりは移設のほうが可能性が高いと聞いています。伊達警察署を通して、公安委員会に要望しております。

**問** 洞爺岩内線と国道230号線の交差点に信号機を設置できないか。

**答** 旧洞爺村時代に、信号機設置要望がありました。当時の役場の担当課が伊達署と公安委員会と協議した結果、交差点を中心に左右に曲線と勾配があり信号機設置による事故が多発することが予測され、これらの理由から設置は難しいと回答がありました。国道230号線と洞爺岩内線の交差点については、特に交通事故が多発している状況ではなく、交差点改良は大変困難であるとのこと。見通しの悪い交差点につきましては、のり面改修、道路用地内の立ち木等の伐採実施、誘導看板等設置の必要性を現地調査などで確認し、有珠復旧事務所と協議をしながら少しでも改善を図ってまいります。

### 質問 2

ヒグマの出没対策について

**問** 町内でのヒグマの被害は、

**答** 農業の被害については、面積は少ないですが、確認をされております。人的被害については、確認はされておりません。

**問** 町内でのヒグマの捕獲は、

**答** 平成18年11月に洞爺地区香川で雄グマ1頭を捕獲しております。町内ではありませんが平成21年10月に香川地区と隣接する真狩村で1頭が捕獲されております。伊達市大滝地区2頭、留寿都で1頭捕獲されたとの情報もあります。

**問** 今後の対策は、

**答** 近隣市町に呼びかけ、クマ出没情報の共有や、町の境界付近の共同パトロールの実施について検討しております。後志管内の留寿都、真狩とも情報交換ができるように、つとめて参ります。

### ひぐまメモ

#### ヒグマの出没

昨年秋、道内各地で出没が相次いでいる。釧路管内白糠町と胆振管内穂別町ではクマに襲われる人身事故も起き、3人が死傷している。

道内では1996年からの10年間で、クマに襲われて6人が死亡、17人が負傷している。クマ猟やクマ駆除中の事故が最も多く7人、次いで春の山菜採り中が6人、秋のキノコ採りとシカ猟中が各4人の順だ。道は昨年、山の幸を求めて入山者が多くなる4月10日～5月16日と9月17日～10月31日をヒグマ注意特別月間と定め、特に警戒を呼びかけている。





# 洞爺湖町の発展は六次産業で

# 松井保明(有志会)



## 質問 1

### 町長の基本姿勢について

**問** 今なぜ協働の社会が求められるのか。その理由は。

**答** 特に当町として財政健全化計画での早期健全化団体からの脱却、洞爺湖温泉街と洞爺地域の観光の活性化が必要。また洞爺地区の均衡ある発展と推進など住民による町づくり参加と共同での立ち上げや個性豊かな地域づくりに対しての活動を支援するなど、住民と行政がパートナーシップ(対等関係)を共有することが強く求められます。

**問** 町づくりを推進するためにも「協働の町づくり指針」や「協働アクションプログラム」―行動計画―の策定についての考えは。

**答** 現行の町づくり審議会の中で論議をして頂き、今後の課題として参ります。

**問** 協働社会を推進するためにも「自治基本条例」や「町づくり参加条例」等の制定について、町の考えは。

**答** 「核」になるものを立ち上げ、地域住民との対話を多く持つ中で、当町にふさわしいかどうか研究したいと考えています。

## 質問 2

### 地産地消(商)について

**問** ※1六次産業化に伴う地産地消促進計画策定についての町の考えは。

**答** 後期5カ年の町づくり基本計画の見直しが行われている中で、現況をふまえて地産地消に関する基本方針を示し具体的な事業について検討し推進して参ります。

**問** 地産地消推進条例制定について町の考えは。

**答** 他町村の動向を把握し、町内の現況を見きわめて必要の有無を検討致します。



「とうや道の駅」地場産品を販売し、地産地消に一躍買っている。

**問** ※2スローフード宣言を発信する考えはないか。

**答** 「スローフード」とは何か、町民、関係者に理解・協力をしていただくための運動であり、当面は「北海道スローフード」を基本として調査、研究をしていきたいと思えます。

## 質問 3

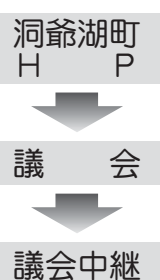
### 地域が元気になる地域活性化対策について

**問** 町づくり活動支援補助制度策定に取り組む考えはあるか。

**答** 協働指針ルールの中で、町財政を見ながら、より効果的な支援に努めて参りたいと考えています。

### 本会議をインターネット中継

是非一度、議会議場にお越し下さい。



※1六次産業化法とは  
農林水産の一次産業、製造・加工等の二次産業、運輸・商業・通信等の三次産業を合わせて六次産業と呼ぶ(造語)。法律は農林漁業に付加価値をつけるための加工などを支援するのが目的。地産地消の推進もします。

※2スローフードとは  
その土地の伝統的な食文化や食材を見直す運動、または、その食品自体を指す言葉。(ファーストフードの反対語ではありません)



# 観光行政のワンストップ化と観光振興の活性化を

下道英明 (町民連合)

## 質問 1

### 観光振興について

**問** 登別・洞爺広域観光圏の認定から半年以上経過したが活動経緯は。

**答** 共通パンフレット作成に伴うワーキンググループ設置、洞爺湖温泉・登別温泉の共通利用券、招待券の発行、着地型旅行商品の説明会、修学旅行の誘致対策などを実施しています。海外向けとして、フラワーマダム北海道誘致、首長による台湾・韓国とのトップセールス、欧米人を対象にした自然歴史遺産のモニターツアー招聘などを行っています。

**問** 観光地で消費される7割は、女性主導です。観光振興にどれだけ女性の意識や目線を考えた観光行政が行われているのか。

**答** 洞爺湖温泉街は、夜になると暗く遊歩道を2人で歩けない問題もLEDの器具に取替え改善しました。これからは、女性に好かれるネッ

ト・パンフレット、紙ものを改めて見直すべきと考えています。

**問** 観光圏認定による旅行業法の特例が認められたが、着地型旅行の販売の実施例は。

**答** 新しい商品としては、出 coming 来ておりません。現在、着地型の人材研修を実施しているところでは。

**問** 外国人が観光施設に行くサイン、標識が少なく不便を感じるとの声を聞くと、観光圏整備事業のなかで案内標識等景観整備の現状は。

**答** ジオパーク関連で誘導板・案内板は、海外のお客様を意識し設置しています。しかし、英語標識だけです。今後は、中国語・韓国語の必要性もあり、検討しなければならぬと考えています。

**問** 最近、羊蹄山周辺から外国人観光客が洞爺湖周辺を目指しています。胆振地域での連泊誘致と同時に、羊蹄山

ろく周辺の後志地域との「行政の垣根を越えた連携」で観光行政を推し進めるべきではないか。



春節で賑わう外国人観光客

**答** ニセコ町、倶知安町、真狩村の首長さんと話す機会があり、洞爺湖の湖、景観に魅力的であるとお言葉を頂いております。広域観光圏として小樽・札幌・ニセコ方面・函館方面とも連携をとって観光振興を進めたいと思います。

**問** スポーツ観光、スポーツ・ツーリズムは、地域活性化の起爆剤になると考えますが、洞爺湖マラソンも含め当町の今後の取組は。

**答** 国においてスポーツ観光の全国組織を立ち上げる動きがあるとのことですが、近年た、洞爺湖マラソンは、近年

の健康志向、競技性の向上等もあり年々参加者が増えています。現在、警察から30分延長の5時間30分を制限時間にする許可を頂いております。2年後には、40回の記念大会もあり、鋭意努力しております。さらに、北海道サイクリング協会の50周年記念大会を洞爺湖温泉で開催することが決定し、スポーツを中心として新たな取組による観光推興を図りたいと思います。

**問** 農業の観光・漁業の観光・火山の観光・環境学習の観光など多岐にわたる観光振興の窓口が複雑です。行政のワンストップ化が叫ばれて久しいが、外からわかる観光振興の窓口「おもてなし推進室」のような観光振興のワンストップ化はできないか。

**答** 今すぐ具体的な項目を発表することは出来ませんが、おもてなしの心を表面に出せないか、新年度に向けて温めています。職員とまだ協議しておりませんが、決まり次第ご報告させていただきます。

# 委員会 活動レポート

## 総務常任委員会

### ■調査事項

町立小中高校の現況調査

◇調査日 11月16・17日

### ◇調査結果

。各校とも学校経営に基づいて学力向上の工夫と努力をされており、成果も上っている。新学習指導要領の取り組みは、各校とも理解を深める努力や国が定めた年次以前から取り組んでおり、スムーズに移行できている。

。いじめの状況・対応については、国が行った2回の調査のほか独自の対応も行っている。一部でいじめが確認され

ているが一過性のもので継続は見られない。全職員が危機意識をもって対応している。

。学力向上への取り組みは全国一斉学力テスト等を踏えて、学習のつまづきやきめ細かい指導、家庭等との連携した環境づくりを行っている。

。毒・劇物薬品の管理については学校によってバラつきも見られる。教育委員会が管理指導を作り管理に万全をききたい。

。避難訓練・防災教育では小中学校ではマニュアルを作り対応しているが、教育委員会と十分連携した対応を図りたい。

学校によっては老朽化の激しいものも見られることから、教育に支障をきたさないよう計画的な補修を実施されたい。洞爺高校では生徒募集に大変苦慮している。町としての対応・取り組みも必要と思う。

。学校からの要望事項等

来年度以降も特別支援員・教育支援員・学習支援員の配置や、校舎の修繕の要望が多く寄せられた。

## 経済常任委員会

### ■調査事項1 洞爺湖町地域新エネルギービジョンの取組

について

(森町、北海道電力株森地熱発電所、森町トマト生産振興協議会)

◇調査日 10月24日

### ◇調査結果

当町には有珠山の地熱エネルギーがあり、その利活用の調査のため森町地熱発電所等を視察した。森町地熱発電所は、15年間の調査・建設工事を経て昭和57年から稼働している。地熱発電は、深い井戸(地熱井)を掘ってマグマの熱で熱くなった地下水をくみ上げて蒸気を取り出し、その蒸気でタービンを回して発電します。残りの熱水は、ふたたび地下へ戻します。森町発電所では、蒸気の有害物質やガス等を取り除き外気とし、熱排水の一部を60度の温水に変換して地元トマト農家に供給している。

昭和45年に稲作転換として、トマトの温泉熱利用園芸ハウスの事業が自然湧出井や掘削井の温泉熱を利用してハウス野菜栽培を開始した。昭和57年に発電所から熱水の供給を受け、現在(21年)トマトは、957トン、キュウリ等で149トン生産し、農業売上高は、3億3千万円に達している。

有珠火山地熱エネルギーを国立公園内外で利活用を図る必要がある。

### ■調査事項2 JAとうや湖の現況

◇調査日 11月29日

### ◇調査結果

①平成23年度の作況状況

春先は低温で、6・7月はかんばつ・高温、9月の収穫時は長雨で大変苦労した。

### ②クリーン農業の取組状況

I 農産物の生産に関する栽培管理システムのYESクリン、エコファーマー等の認証を取得しながら基準の見直しを全部会で実施。エコファーマー認定農家は、60戸、YESクリーン認証農家は、

163戸。

II 生産者と販売先の取引における信頼関係の構築及び維持のため、「グローバルGAP」に取組み22年12月には、維持認証を取得し、メンバー16名、エントリー品目数は、11品となった。

III 「こだわり農産物」のPRとして、「雪蔵物語」の活用、生産情報のインターネットの充実、各種イベントでの販売促進により農家所得向上のため取り組んだ。

### ③その他

福島原発事故の影響で、牛肉農家の補償として、東京電力に前期分(7・9月)約3千万円の補償金を請求した。放射能検査費が1頭7千円かかり苦慮している。

(まとめ)

町村合併後、洞爺地区の農家から不安、不満の声が聞かれる。町は、コミュニケーションの機会を多く持ちながら、クリーン農業の取り組み、人づくり、土づくり、施設(雪蔵)不足等に積極的に支援されたい。



# 胆振管内 議員研修会

平成23年11月21日壮瞥町洞爺サンパレスにて今年度の管内議員研修会が7町の議員の参加で行なわれました。

講師として札幌大学の浅野一弘教授を招いて「危機管理の行政学」を演題として、講演をいただきました。洞爺湖町からも13名の参加がありました。演題の前半としては政



権交代と危機管理、日本における危機管理への関心、理念、リスク管理など言葉の定義、違いからスタートしました。

## 危機管理の4局面

1 予防・2 事前準備・3 応急・4 復旧 として、従来の防災対策では、予防、事前準備に力点が置かれ、応急の側面が若干軽視されてきた傾向がある。今後の復興にあたっては、大自然災害を完全に封鎖することができるとの思想ではなく、災害時の被害を最小化する「減災」の考えかたが重要であると講和をいただきました。

後半からは、危機管理の行政学として、阪神・淡路大震災を事例に行政機関と危機管理についてお話があり、行政機関ほど危機管理に不向きな組織はないし、もともと、もちろん、弱いものである。文章主義、先例重視、画一性、形式が優先され、安全性を求め



## 支援する側の意識改革

必要としているものがなくなるときに、届かない。見た時点と届いた時点では必要なものが異なるという点です。必要なものを発信したはずが、不足したり、あまりすぎた事例が多くあるとのことでした。支援される側の情報を早く、的確にとらえることが重要であると講和をいただきました。

洞爺湖町は数十年間隔で噴火災害が想定されますし、東日本大震災による津波での被害など自然災害の想定は重要であると思います。浅野教授が話された透明性、説明責任、住民参加、公平性を意識しながら危機管理に努めなければいけないと思いました。

(報告者 大西)

## 表紙のご紹介

今回の議会だよりの表紙は、洞爺町在住の鈴木千賀子さんの作品です。



## 編集後記

東日本大震災や、全国各地での台風の被害が起きた平成23年は、日本漢字能力検定協会の今年の漢字で「絆」が選ばれました。改めて、家族や地域の絆について、考えてみたいと思います。また、それを地域づくりに繋げていきたいと考えております。

さて、洞爺湖町議会だよりは、今回23号の発行となりました。議会だよりは、年間4回、議会や委員会の動きをお伝えしております。

町民の皆様に議会を知っていただく大事な情報の源のひとつです。できるかぎりわかりやすく親しみやすい、紙面づくりを目指してまいりますので、今後共よろしくお願ひ申し上げます。

昨年は、大変経済環境の厳しい一年となりましたが町民の皆様にとつて、新しい年が輝しい年となります様に、心からご祈念を申し上げます。記とします。

(岡崎)